



福島市ボランティア連絡協議会便り

第101号 令和 7年 1月 25日
発行責任者 福島市ボランティア連絡協議会
会長 佐藤 寛
Tel 533-2821 Fax 533-8879

第37回ふれあい広場に参加しました

市民の皆さまの福祉に対する理解を深めていただくため、今年度も、市社協さん主催のふれあい広場が、10月19日（土）道の駅ふくしまで開催されました。12名の会員さんにご協力いただき、パネル展示やパンフレット等による本会・各サークルの活動紹介、障がい者スポーツのポッチャと輪投げ体験、手引きサークル「歩み」さんによる手引き体験を行うことができました。来場者の方に、本会や各サークルの活動について知っていただくことができよかったです。来年度も、より多くの市民の皆さまに活動を紹介し、ボランティア活動に関心を持っていただければと思います。

～「手引き」初体験♪～



～ご協力ありがとうございました～



～ポッチャ楽しみました♪

赤い羽根 街頭募金に協力

10月6日（日）、福島駅東口駅前広場で、赤い羽根共同募金「街頭募金」が行われました。当日、多くの団体の方が参加され、本会からも4名の会員さんにご協力いただきました。駅前ではダンスなどのイベントも行われていたため人出もあり、募金に協力してくれる方も多くみられました。市民のみなさまの善意が住みよいまちづくりに活かされていけるよう、来年度以降も協力できればと思います。ご協力いただいた市民のみなさま、会員みなさまどうもありがとうございました。



令和6年度研修会Ⅱ

～じょーもぴあ宮畑 施設見学とものづくり体験～

12月1日（日）、今年度二回目の研修会を、本会副会長 村上博彦さんがボランティア活動を行われている「じょーもぴあ宮畑」で実施し、8名の会員さんにご参加いただきました。村上副会長さんから縄文時代の生活についてなど詳しい説明を受けながら、わからないことを質問したりして、施設の中や外を見学することができました。見学後は、職員の方やボランティアの方に教えていただきながら皆で勾玉作りを体験してきました。

村上副会長さんはじめ、ボランティアさんが実際に活躍されている姿にふれ、お話をすることができたこともいい機会になりました。これからもいろんなボランティア活動が広まっていくとよいなと思います。お世話になった皆さまどうもありがとうございました。

～村上副会長さんの説明を
熱心に聞く参加者の皆さん～



～ボランティアさんに教えてもらい
勾玉作りに初挑戦！～

参加者の方の感想

（研修会Ⅱ）

～じょーもぴあ宮畑～

今日は大変お世話様になりました。

3人とも初めてで、いつかは行ってみたいと思っていた人たちだったので、皆喜んでいました。

村上さんの説明を受けて、想像をいろいろ巡らして、昔の暮らしに浸ったひと時でした。そして、今の生活の有り難さがよけい深く感じられました。

本当にありがとうございました。

（個人会員 菊田ヨネさん）

（研修会Ⅰ）

～フタバスーパーゼロミル・請戸小学校～

岐阜県にある会社「浅野撚糸」の二代目現社長は福島大学出身で、震災後、お世話になった福島に何かできないかと考え、業績が上向きになり新しい会社を作ろうとなったときに、それなら、と双葉町に決めたそうです。吸水性に富んだ糸を5年かけて開発したそうです。工場見学もでき、カフェやショップも併設されています。

震災遺構の「請戸小学校」は、全員避難が奇跡と言われていますが、日頃の心がけと地域の連携ですとガイドの方はおっしゃっていました。「子供たちは無事でしたが、犠牲になった住民もいます。原発から5キロメートル。その後の捜索活動ができず、それが無念です。未だに行方不明者が31名います」との言葉が胸にささりました。

話にきくのと実際行ってみるのとでは違います。どちらも周囲には建物が何もなくて、ポツンとそこだけがあるという不思議な光景でした。

（図書ボランティアの会 嶋原朋子さん）